



このたび、全日本教職員バドミントン選手権大会・団体戦において、私たち京都府代表が一般男子、壮年男子の部で優勝という栄誉ある結果を収めることができ、大変うれしく思います。

試合では、一般の部、壮年の部ともに一回戦から準決勝・決勝まで全て息の詰まるような接戦の連続でした。

私自身初めての教職員大会への出場でした。久しぶりに感じる団体戦の一体感、少し緊張もありましたが、ベンチや応援席からの熱い声援に何度も励まされ、バドミントンの良さ、団体戦の良さを改めて実感することができました。

教員としての仕事をこなしながら練習時間を確保することは難しく、不安な気持ちや体力的にしんどい場面もありました。しかし、京都府チーム全体が最後まで諦めない姿勢で挑んだことで、このような素晴らしい結果を残すことができたと思います。

また、全日本教職員大会を通じて、全国の先生方と交流できたことも、大きな財産となりました。競技以外の場面で、教育現場での悩みを相談し合えることは教員としての視野を広げることができるとても貴重な機会でした。バドミントンを通じて得た繋がりが、明日からの教育活動への活力にもなっていくように感じました。

最後になりますが、大会運営に携わってくださった皆様、日々支えてくれた学校関係者や家族、生徒たちに、心より感謝申し上げます。京都府代表として、一般、壮年の部において優勝という形で恩返しができたことを誇りに、これからも現場で全力を尽くしてまいります。

【京都府代表・中嶋 遼】